

## 5. 研修日記

1/3  
木曜日

空港に着くと早速大きな大仏が展示されていた。記念写真を撮る観光客も多かったが、「大仏にお尻を向けて写真を撮ってはいけない。」ということを知った。文化の違いを感じた初めてのことであ

る。(吉田)

マイナス15度からプラス25度の世界へ。極端な気温差と巨大な仏像の出迎えにより、スリランカに到着したことを実感。クラクションの音にまみれながら、交通渋滞の洗礼を受ける。(小竹)

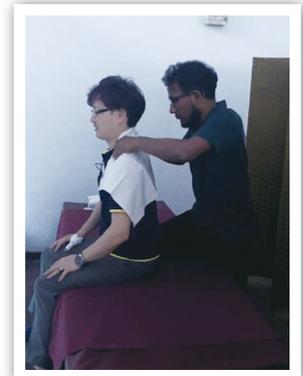


1/4  
金曜日

JICA事務所にてスリランカの教育の現状を教わった。都市部と郡部では教育環境に大きな格差があることが分かった。ジャヤワルダナセンターには日本会館があり、日本との交流の深さを示す品々が展示されていた。恥ずかしながら日本人として初

めて知ったことばかりだった。帰国後に本校の子どもたちに伝えるべきと感じた。更にAPCASの石川さんが、視覚障がい者が自立できるようにとの願いを込めて「共

に歩いていく」とおっしゃったことが深く印象に残った。(吉田)



ブリーフィング後、ジャヤワルダナセンターへ。日本ではあまり知る機会のない、スリランカとの強い結びつきを感じる。APCASの石川さんより、実体験を伴った深いお話。「支援」とは何なのかを、再考するきっかけに。(小竹)



1/5  
土曜日

仏歯寺では、スリランカの宗教観を垣間見ることができ、宗教が人々の思想に大きな影響を与えていることを感じました。キャンディーでは、たまたま日本語を勉強している人たち会うことができ、なぜ

日本語を学ぶのかをインタビューすることができました。また、教材づくりに役立つようなものを購入できました。(山口)



仏歯寺は、地元の信者や外国からの観光客まで多くの人

でごった返していた。白い装束を着て裸足で寺院に入る信仰者から、敬虔な思いを感じる。キャンディマーケットも、人で溢れかえっており、教材やお土産などをかう中で、店員さんとの値段交渉も楽しんだ。道中で、ドライバーさんが遠くに象を発見し、停車。撮影大会に。(谷口)





世界遺産シギリヤへ。日本の有償・無償支援があり、麓の博物館でも、多くのそれを感じた。頂上は絶景で、この国の緑の多さに驚かされた。夜は、JICA隊員の方々と食事。現地の方と同じ方向を向いて仕事を進めていくことの大変さを伺うことができた。(谷口)



スリランカで最も人気のある世界遺産の一つを見学した。博物館建設等に有償無償を含め多くの日本の支援があることに驚いた。また、頂上の遺跡では地元の家族にインタビューしていた。皆熱心に答えてくれた。ヒンドゥー寺院では、仏事が行われていた。日本にも寺院、神社、教会など様々な宗教の施設があるが、宗教行事が日常的に行われている様子を目にすることはめったにない。(吉田)



自分自身が特支教育に興味があるということもあり、海外の現場と日本の現場を比べながら考えることができたのは良い経験でした。また、ホームビジットはこの研修一番の思い出になっています。家庭の雰囲気を経験でき、児童に還元したいという思いをもつ時間となりました。(長山)



学校訪問では、子ども達が私達を歓迎してくれました。特別支援学級では、いか踊りを一緒に踊り、折り紙をしました。インタビュー

のためにタミル語にチャレンジしましたが、ほとんど通じず、現地の先生方が助けてくれました。また、日置隊員のソーシャルワーカーとしての仕事について触れることもできました。ピースウィンズジャパンの活動は、現地の人と同じ方向を向くための支援が行われていました。スタッフの方は、現地にすっかり馴染み、内戦を経験した人たちが自分たちで立ち上げられるような支援をしていました。ホームビジット先で食べた家庭のカレーが本当においしかったです。また、内戦を経験した人たちの「平和」に対する考えを聞くことができたのも大きな収穫です。(山口)



久富隊員が取り組まれている女性就労支援のフードコートで食事。インタビューを通して、働いている方からやりがいを感じるという言葉も聞くことができた。教員養成校では、音楽の授業を見せていただく。学生さんは、皆従順で、先生の話熱心に聞いている。イカ踊りや参加者にインタビューなどで充実し



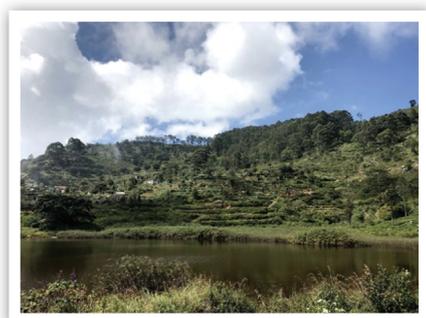
た時間を過ごす。生徒が、大津隊員を慕っていることが分かり、隊員の方が現地の方に愛されて初めて開発や支援に着手できることを感じた。(谷口)

フードコートでは、年配の方にジャヤワルダナについての話を聞くことができた。やはりこの国の英雄であることを再確認することができた。また、養成大学では大学生と交流することで、ジャヤワルダナについて歴史の学習として勉強することも分かった。(紺野)



茶畑、茶工場の見学を行った。山奥にもかかわらず、そこには一つの街があり、バスも通っていた。また学校に立ち寄ることもできた。突然訪れたにも関わらず先生も子どもたちもフレンドリーに話しかけてくれた。この国民性や

人の温かさに好意をもった。(紺野)



広大な茶畑を目にし、スリランカの産業が紅茶によって支えられていること、また、茶畑を通して多くの雇用を生み出していることを感じた。茶摘みを行う人々は、家業として行っており、外に出て行って他の職業に就くことはなかなか難しいという現状もあるらしい。(藤田)



環境教育が教育課程に位置付けられているスリランカですが、「ごみ」が大きな問題になってきていることや、それに対応するための金地隊員の取組などを聞きました。ごみ問題は、みんなの問題であることから、どれだけ市民も危機意識をもってこの問題に取り組んでいくかが大事だと感じました。(山口)



JICA隊員との会食が非常に良い時間でした。自分と歳が変わらない隊員も多く、ただただ感銘を受けていました。一方で世界のために働いている方々の話の中には自分の考えと似通っている部分も多く、素敵の方々とお会いさせていただけた機会に感謝をしています。(長山)





日本の文化を踊りや遊びを交えて伝え、カンディアンダンスを披露してもらった。日本語を専攻しているということで、日本に行ってみたい、日本が好きという言葉をもらい、日本人として誇らしい気持ちになったと同時に、ますます様々な国と人とつながりたいと感じた。(紺野)



研修日程の最終プログラムとして、国立の女子校への視察および交流を行った。

学校紹介のVTRでは、合格率や成績をアピールしており、スリランカが学力社会の中にあることを感じた。交流では、高校生とイカ踊りやそれぞれのブースに分かれて日本の遊びを行った。私たち外国人に対して、敬遠することなく、笑顔で遊びに向かう姿が印象的だった。日本の学生にはない純真さを感じられ、この違いはどこからくるのかと考えさせられた。(藤田)



コロンボ市内の朝の交通渋滞を掻い潜り、空港へ向かった。入国した際には見えなかった様々な風景をしっかりと目に焼き付けた。所持品検査も日本のそれとの勝手の違いに戸惑いつつも無事出国。夜間のフライトだったので外は真っ暗だったが、日本に到着し朝日の中の景色を目に、この10日間の出来事が夢のような気さえしたが、あっという間の10日間であった。(吉田)

